



病院機能評価を受審して

センター長 佐藤 義朝

初めに、本年4月に（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価の「本体（リハビリテーション病院）受審（3rdG:Ver.2.0）」と「高度・専門機能のリハビリテーション（回復期）Ver.1.0」のダブル受審を終え、無事認定を更新することが出来ました。ここに、ご指摘やご指導をいただいた全ての皆様と、センター職員皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

病院機能評価は、安全安心な医療が受けられるよう、病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価し、組織横断的な質の改善を支援する評価制度として、診療報酬改定における回復期リハビリテーション医療においてもその受審が推奨されています。

当センターではこの評価の初回認定を平成18年7月に受け、その後も5年毎に認定を更新し、当センターのリハビリテーション医療事業、教育研修事業、地域支援事業および研究開発事業の4事業について、院内外からのご意見やご要望も取り入れながら質の向上に取り組んで参りました。

今回の本体機能の受審のポイントは、臨床の現場で展開される診療・ケア、業務の流れなど、「活動状況に重点を置いた確認」と「体制の整備・規程整備（ストラクチャー）」、および「活動成果（アウトカム/質改善）」をサーベイ

ヤーから評価いただくとともに、それらを実行する「機能の発揮/組織的活動（プロセス）」が機能しているかがポイントでした。また、高度・専門機能においては、回復期リハビリテーション診療に対して、本体受審より高い水準をクリアすることが求められていました。受審後の講評では、評価者であるサーベイヤーの皆様から概ね良好な評価をいただきましたが、指摘された事項については速やかに改善をすすめるよう、今後とも担当の部署や委員会において検討を続けて参ります。

さて、私自身が重要な課題と感じているのは、これからの当センターにおける適切なガバナンス（管理体制）は如何にあるべきかということです。当センターは、岩手県が設置し「（公財）いわてリハビリテーションセンター」が運営する公設民営の病院として現在は機能し、理事会・評議員会の議決において組織運営の方針を決定しております。また、院内においては、幹部職員からなる管理会議を毎週開催し、各部署へ指示を伝達することによりガバナンスを維持しております。このような上から下への垂直的な管理体制は高い精度の管理を可能とし、重要な決定を下すのに不可欠な仕組みですが、一方で日常の診療や非常時の対応は時々刻々と状況が変化するものであり、

現場からの速やかな情報収集が必要となります。今回サーベイヤーの方々から、現場からの声をさらに吸い上げる仕組みを整備するよう努めていただきたいとご指摘をいただきました。このご指摘は、当センターが開設から30周年を迎えるにあたり、今まで築いてきた組織運営をさらに前進させるために、「職員全ての自立と自律をはぐくむような体制を整備することが、これからのリハビリテーションセンターのあるべき姿である」と言われたように感じています。今後は、職員一丸となってボトムアップの体制を熟慮し、新しい体制を実行にうつしてまいりたいと思います。

人口減少の影響やいつ来るかわからない災害のリスクなど、全てを避けるのは難しいか

もしれませんが、様々な課題は組織や社会の成長の機会と捉え、諸先輩達が築いてきたスピリットを磨き、次世代社会を支えるリハビリテーションについて、職員一人一人が考えていけるような土壌を創ってゆきたいと考えておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



盛岡北部地域リハビリテーション

広域支援センターの活動紹介

盛岡北部地域リハビリテーション広域支援センター 東八幡平病院 藤原 瀬津雄

盛岡北部圏域の5市町（滝沢市、八幡平市、雫石町、岩手町、葛巻町）における地域リハビリテーション推進に貢献する『盛岡北部地域リハビリテーション広域支援センター』の指定を受けている東八幡平病院から令和4年度の活動内容を紹介させていただきます。

今年度、岩手県地域リハビリテーション連携指針が改定されその活動の推進において、郡市医師会やリハ関係団体、協力施設や市町村との連携・協力を図りながら進めることとされ、市町が取り組む地域包括ケアシステムを支える新たな地域リハビリテーション支援体制が示されました。

当センターでは昨年度（令和3年度）に県央保健所と協力し圏域のリハ資源調査を実施し、その結果を基に本年度「盛岡北部圏域リハ職ネットワーク会議」をオンライン開催し改定された連携指針や資源調査結果等を共有しま

した。今回圏域内リハ関連各施設のネットワークが構築されたことにより研修会案内、研修資料等の共有がスムーズに行えることとなりました。振り返ってみると2年前からのコロナ感染症拡大に伴う対面活動の抑制から、Zoomに代表されるオンライン会議システムの一般化もこのネットワーク構築に寄与しているものと考えます。本年度広域支援センターにはオンライン会議用の機器が整備され、会議のみならず市町のシルリハ定例会への参加や、介護予防教室での試行も今年度から取り組み始めています（写真1、2参照）。



写真1
シルリハ定例会への
オンライン参加



写真2
一般介護予防教室でのオンライン指導試行

また盛岡北部圏域では本年度滝沢市がシルバーリハビリ体操事業に参加することとなり、5市町全てで体操指導者の養成が始まる事となりました。そのことを受け八幡平市や岩手町で行われる市町での指導者育成事業へのサポートと、これから始まる市町のリハ職に向けた基礎研修、養成事業見学の案内を行わせていただきました。また今年度下半期に向けて盛岡北部圏域5市町の介護予防事業の取り

組みを互いに知るべく、各市町の地域包括支援センターからご報告頂く研修会を企画しています。



写真3
リハ強化型運動教室の様子

圏域のリハ職が市町の事業を知り、そして各市町事業に参画できるよう、今後も広域支援センターとして活動を進めていきたいと考えていますので、関係する皆様のご理解とご協力の程、何卒よろしくおねがいたします。

盛岡北部地域リハビリテーション広域支援センター

住 所：〒028-7303 岩手県八幡平市柏台2-8-2 東八幡平病院内

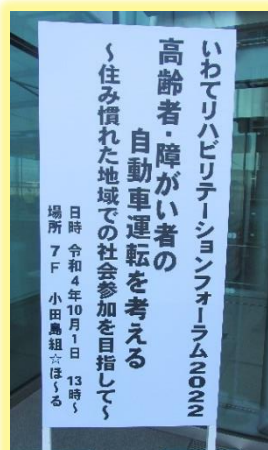
担当者：地域リハビリテーション推進室 藤原 瀬津雄

連絡先：TEL：0195-78-2511(内線280) FAX：0195-78-3437

Mail：n.morioka-cbr@mairin.jp



いわてリハビリテーションフォーラム 2022



での社会参加を目指して～』をメインテーマとし、基調講演とトークセッションの2部構成としました。このテーマは昨年度開催に向けて準備をしていましたが、コロナ禍の状況を鑑み直前でやむを得ず見送りとなり、今年度改めてハイブリッド開催

令和4年10月1日(土)に、アイーナ・いわて県民情報交流センターにて、いわてリハビリテーションフォーラム2022を開催しました。今年度は『高齢者・障がい者の自動車運転を考える～住み慣れた地域

作業療法科長 大久保 訓

(会場とオンライン)となりました。

高齢の方や障がいのある方にとって、移動手段としての自動車運転の必要性は高く、特に公共交通機関が整備されていない地域では重要な位置づけとなっています。そこで、本フォーラムにおいて、高齢者や障がい者の方々が安全に運転を継続するにはどのようなことが求められるのか、実際に自動車運転支援に関わっている方々からお話しいただき、今後、地域や社会でどのような取り組みが必要かを共有するため企画、開催させていただきました。

第1部の基調講演では、慶応義塾大学医学部精神・神経科学教室教授の三村将先生より「近未来社会における人と車の共生」と題してご講演をいただきました。

高齢社会と自動車運転、日本と海外の自



自動車運転免許制度や認知症と高次脳機能障害、また、実車評価の重要性についてもお話しいただき、自動車運転の可否は、病名だけでは

なく状態像でみていくとのお話が特に印象に残りました。

第2部のトークセッションでは「安全に運転を続けていくために～本人・家族・社会ができること～」をテーマとし、4名の方に登壇していただきました。

最初に、日経BP総合研究所上席研究員の狩集浩志氏から、自動運転の最新状況を分かりやすく



田市の自動運転バスの運行については、移動手段の発展にさらに期待を持ちました。

次に、行政の立場から岩手県警察本部交通部運転免許課講習補佐兼免許・試験補佐の照井圭寿氏より、運転免許制度を再認識した上で、自分の身体状態を正しく把握することが安全運転につながるというお話をいただきました。

最後に、高齢者・障がい者の支援を行っている立場から、中央自動車学校管理者の平野文男氏と指導課長の妹尾広明氏から自動車学校の役割を教えていただき、実際の高齢者講習と障がいのある方への運転再開支援講習についても知ることができました。運転に必要な認知・判断・操作に

関して、運転者本人に気づいてもらうことの大切さを学びました。



今回、自動車運転に関する日本の状況をお話いただき、さらには岩手県内の関係機関の方々の実践をうかがう機会にもなりました。自動車運転が出来ることは活動や社会参加が維持拡大され、三村先生がお話しされたように幸福寿命の延伸に繋がっていきます。住み慣れた地域での社会参加を目指して個人で意識すること、また、地域社会の課題と捉えることも再認識しました。

これからも関係する方々と一緒に連携していきたくと、改めて確認したフォーラムとなりました。



※知っ得と便利「自動車運転に関するシリーズ」第3回目は次号に掲載します。

＜年4回発行＞

発行●いわてリハビリテーションセンター 所在地●〒020-0503岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243

TEL 019-692-5800 FAX 019-692-5807

Eメール●info@irc.or.jp インターネットホームページ●<http://www.irc.or.jp>